

第3章 産業廃棄物の処分実績報告書（様式第27号）の集計結果

第1節 産業廃棄物処理業者の処分量

1. 処分量の推移

平成17年度の産業廃棄物処理業者の処分量は3,044千トである。この内、中間処理量が2,667千ト、直接最終処分量が376千トとなっている。平成16年度と比較すると中間処理量が16千ト増加し、直接最終処分量が7千ト減少している。

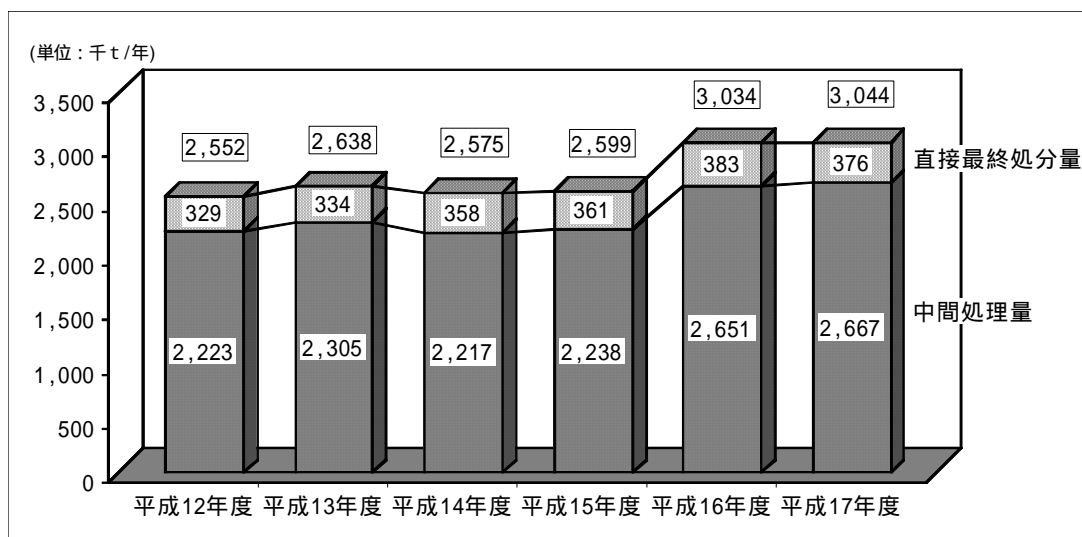


図 3-1-1 処分量の推移

2. 処分方法別の中間処理量

産業廃棄物処理業者の中間処理量を処分方法別にみると、「破碎・圧縮」が2,213千ト（83%）で最も多く、次いで、「焼却」が128千ト（5%）、以下、「堆肥化」が95千ト（4%）等となっている。

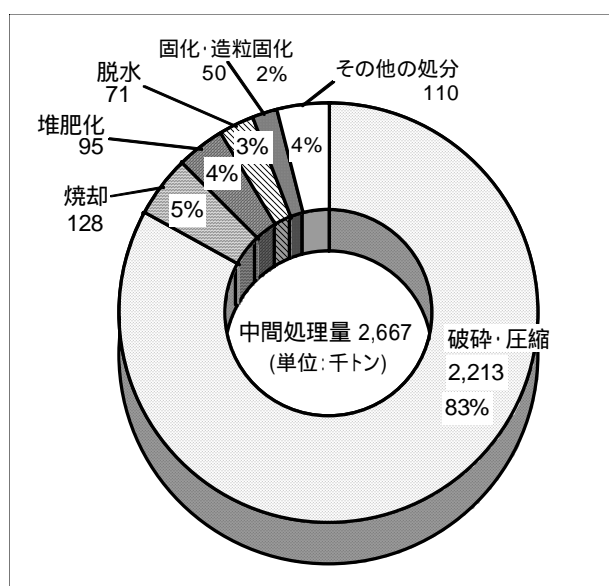


図 3-1-2 処分方法別の処分量

3. 廃棄物種類別の処分量

処分量を種類別にみると、中間処理量では、がれき類が1,828千トン(69%)で最も多く、次いで、汚泥が189千トン(7%)、木くず186千トン(7%)等となっている。直接最終処分量では、汚泥が93千トン(25%)で最も多く、次いで、廃プラスチック類が78千トン(21%)、ガラス・陶磁器くずが58千トン(16%)等となっている。

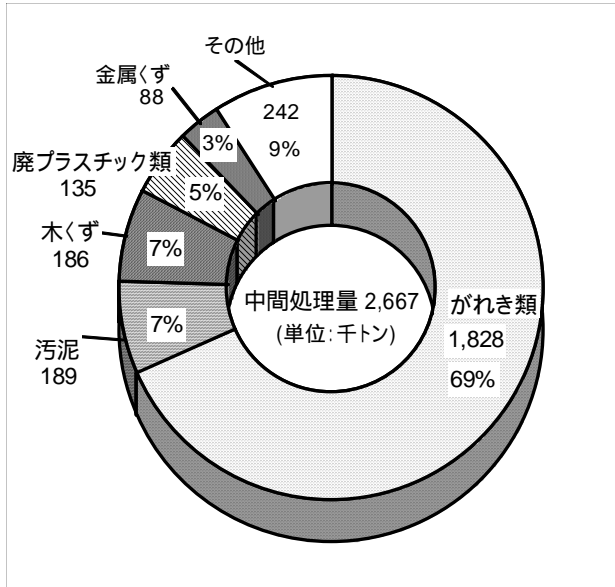


図 3-1-3 種類別の中間処理量

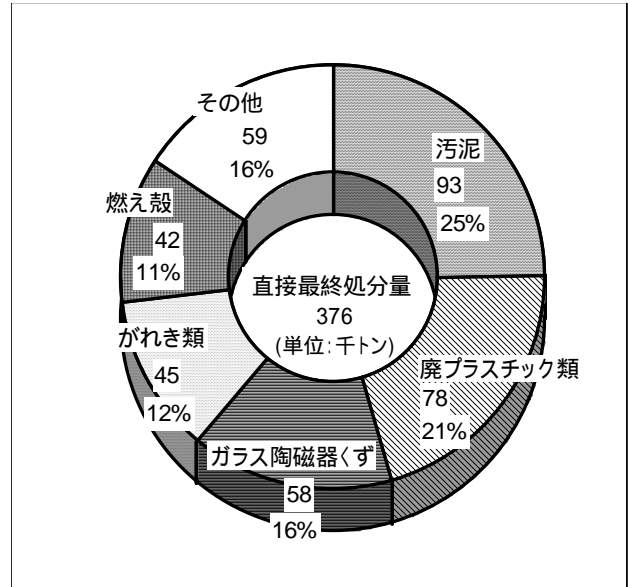


図 3-1-4 種類別の直接最終処分量

第 2 節 県外から県内への搬入量

1. 県内搬入量の推移

平成 17 年度の県内搬入量は、369 千トンである。この内、中間処理目的が 228 千トン、最終処分目的が 141 千トンとなっている。平成 16 年度と比較すると中間処理量が 59 千トン増加し、直接最終処分量が 17 千トン増加している。

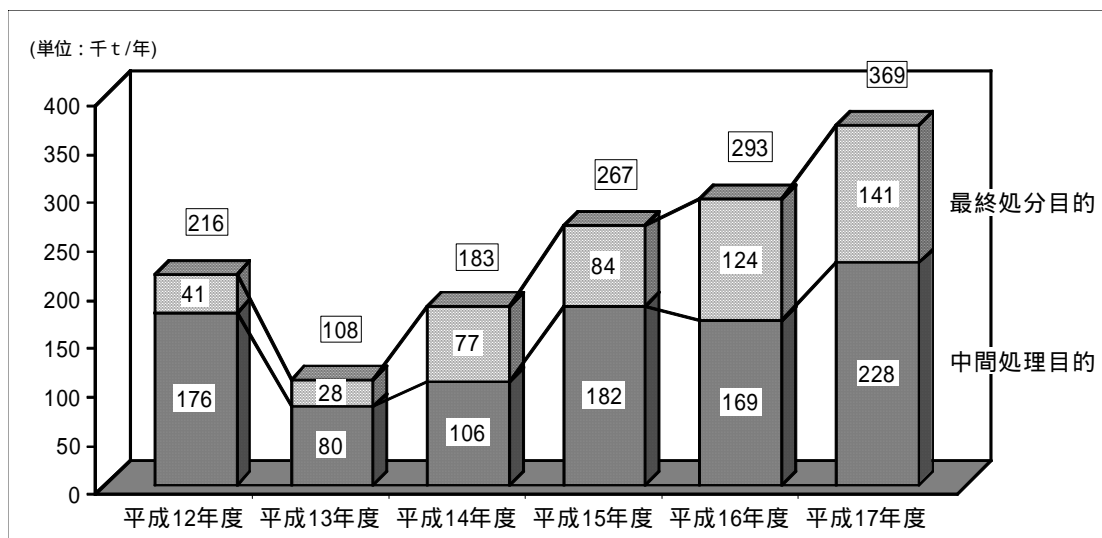


図 3-2-1 県内搬入量の推移

2. 種類別の県内搬入量

県内搬入量を種類別にみると、中間処理目的では、金属くずが 52 千トン（23%）で最も多く、次いで、廃プラスチック類が 46 千トン（20%）、木くずが 41 千トン（18%）等となっている。最終処分目的では、廃プラスチック類が 43 千トン（30%）で最も多く、次いで、13号廃棄物が 25 千トン（18%）、汚泥が 25 千トン（18%）等となっている。

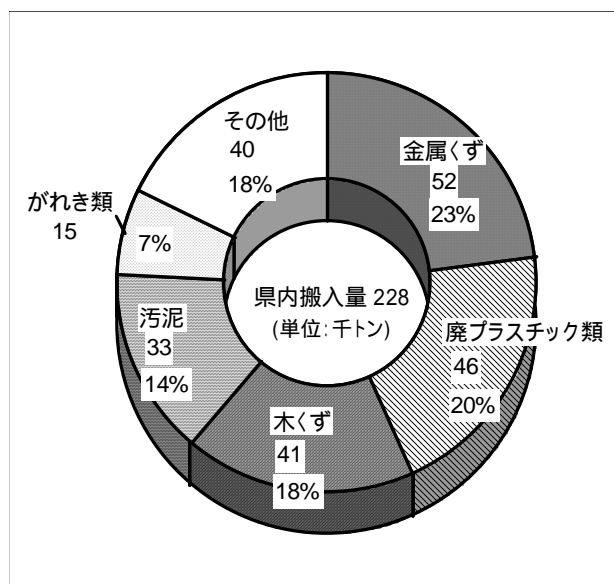


図3-2-2 種類別の県内搬入量（中間処理目的）

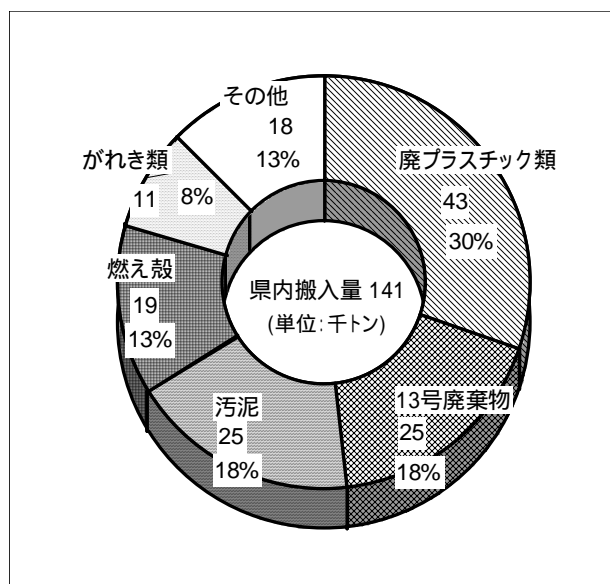


図3-2-3 種類別の県内搬入量（最終処分目的）

3. 搬出地域別の県内搬入量

中間処理目的の県内搬入量を地域別にみると、東北が 150 千トン（66%）で最も多く、次いで、関東が 75 千トン（33%）等となっている。最終処分目的の県内搬入量を地域別にみると関東が 121 千トン（86%）、次いで、中部が 15 千トン（11%）等となっている。

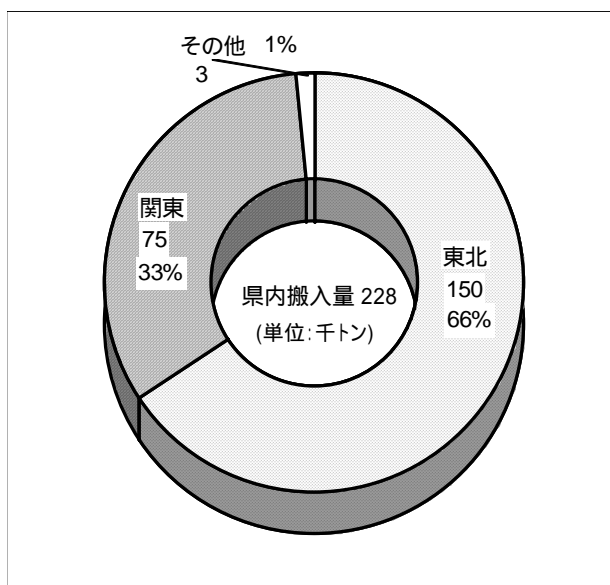


図3-2-4 地域別の県内搬入量（中間処理目的）

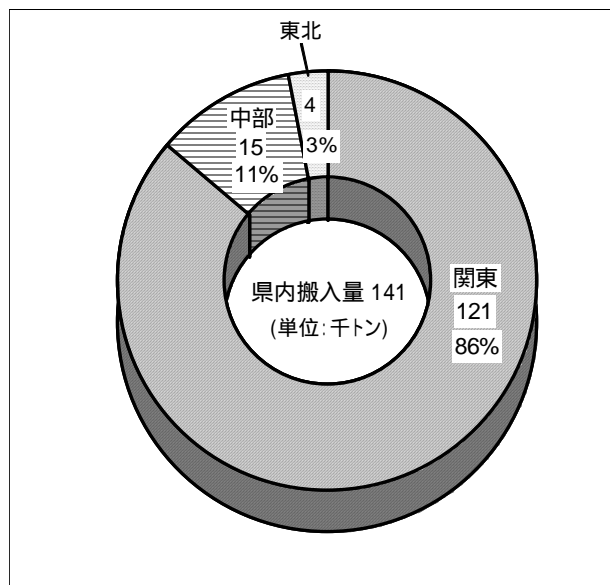


図3-2-5 地域別の県内搬入量（最終処分目的）